

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870700345
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホームはるか
所在地	大洲市春賀甲1666-1 TEL 0893-26-1165
自己評価作成日	平成24年6月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「自分らしく なごやかに 今を生きる」の理念を基に、利用者一人一人の個性や特徴を活かし、毎日が尊厳ある行き方が出来るよう努めている。又、毎月行事や日常の様子等の写真とコメントを掲載した「だんらん新聞」を作成し、地域や各事業所に発行している。毎日定刻でのラジオ体操やイージーウォークなどを取り入れ、また個別に体操や運動を実施する事で、運動不足の改善・排便コントロールなどに効果を得ている。裏山の木々や花で季節を楽しめる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●木曜日にはパンの移動販売車が来てくれ、利用者はお好きなパンを選んでおやつにされている。ご自分の汚れた下着や衣類は「ご自分で片付けたい」、又、「女性の職員に洗濯を頼みたい」と思っている方もあり、職員は、居室にバケツを準備されて、ご自分で入れられるように支援されていた。居室を離れる時には、必ず鍵をかける方には、夜間の睡眠にも配慮して、職員はご本人がトイレに起きて来られる際に状態を確認されている。利用者のお誕生日には、それぞれにご本人の願いを叶えられるような支援に取り組んでおられ、ご家族とも相談しながら、お墓参りや洋服等のショッピング、又、職員から寄せ書きを贈ったり、パースディケーキを手作りしてお祝いされている。職員は、「自分が認知症になった時、入居したいと思うようなホーム作り」を目指して取り組んでいきたいと考えておられる。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはるか

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏名 西本 恵子

評価完了日

平成24年6月10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) [自分らしく和やかに今を生きる]の理念の基、「明るく温かな我が家」をテーマにあげて職員と話し合って対応している。又、理念の統一した解釈が出来るように、再度話し合い、理念の共有実践につなげている。 (外部評価) 事業所理念とともに、周りの自然環境と共生することをコンセプトにして、取り組みをすすめておられる。事業所は、山や畑等、自然の中にあり、又、法人代表者は、季節ごとにお花や緑を楽しめるように、裏山には多種類の花木を植えておられ、利用者や職員が自然を楽しみながら暮らせるよう環境を整えておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所に各部落総代を招き、事業所と地域との繋がりを大切にしている。地域の行事(地方祭、盆踊り、文化祭、学校行事)など 利用者と共に参加して楽しませてもらっている。又盆踊り準備のやぐら設置や、清掃活動にも事業所の一員として参加している。 (外部評価) 事業所は、「地域の中の一帯として、地域とおつき合いをしたい」と考えておられる。地域のお寺で甘茶が振舞われる際には、利用者も出かけていき、地域の方達と交流されている。又、運営推進会議時に、民生委員の方が、「私も居るから、お神楽においで」と誘ってくださり、お神楽は、利用者も馴染みでもあり、楽しみに参加され、餅まき等も楽しまれた。地域の回覧板で回してもらっているホーム便り「だんらん」は、今年5月で68号となり、地域の方達に事業所の活動を知っていただくため、情報の発信源となっている。近くの畑に、大洲農高生が菜の花を撒いてくれて、早春には満開になり、利用者を楽しませてくれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 事業所では、地域の人々に認知症についてや、介護力を活かしてもらえるように介護教室を行なった。また、三善会全体の四季報を4000部発行し、各事業所の情報を地域へとお伝えしている。又、GHの広報誌である「だんらん新聞」を毎月地域に配布し、GHへの理解や支援の方法を 地域の人々にお知らせしている。今後も地域高齢者の暮らしがサポート出来る様に取り組んでいきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み                      運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)                      構成員より、地域の行事予定について早目に連絡を受け、情報を共有し、意見をサービスの向上に活用している。又、利用者との触れ合いを大切に、季節によって、茶話会・クリスマス会を組み入れて、馴染みの関係作りを行っている。又大洲警察署から「認知症の方々を取り巻く環境」について講話を依頼し、地域の方々と共に学ぶ機会が持てた。今後も地域と共に学ぶ機会を増やし、成長できる活動にしていきたい。</p> <p>(外部評価)                      事業所では、会議を、「参加してよかったと思えるような会議にしたい」と取り組んでおられる。5月の会議では、警察の方に協力をいただき、「認知症の方々を取り巻く環境」というテーマで、「徘徊等、行方不明の実態と予防」「施設での対策と手段」等について講話いただいた。参加した地域の方からは「勉強になった」との感想が聞かれたようだ。今回は、時期等も踏まえて、脱水症や災害について消防の方を招き学びたいと計画されていた。会議は、事業所のサービスを良くしていくための取り組みでもあり、今後さらに、利用する側である利用者やご家族からも意見が聞けるよう、会議参加を働きかけていかれてほしい。</p>	
5	4	<p>市町村との連携                      市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      地域密着型サービスとして、運営推進会議以外にも、年3～4回、在宅サービス担当者会を開催して頂き、情報交換や制度等、あらゆる面についても説明を受けている。介護相談員も毎月来て頂き、お話しをされたり、話しを聞いてもらったり。一緒に余暇活動をしてGHの実情を見て頂き、第3者としての目でGHの成長に協力して頂いている。</p> <p>(外部評価)                      介護相談員が来られた際には、ぼた餅作りのお手伝いをして下さったり、利用者と一緒に七夕飾りを作ったり、おやつと一緒に食べながら談話されている。時には、避難訓練に参加されることもあるようだ。又、運営推進会議に市の担当者の方が参加して下さっており、事業所からの活動報告に、「レクリエーションや外出をよくやっていますね」と感想をいただいたこともある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践                      代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)                      職員全員、身体拘束について身体拘束防止マニュアルなどで理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関など感知式のセンサーを設置しているが、センサーだけに頼るのではなく、利用者が外出されそうな様子を察知したら、一方的に止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に同行する等、安全面に配慮しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支えるようにしている。</p> <p>(外部評価)                      利用者が一人で外に出て行かれて、転倒されたことを機に、職員や法人で話し合いが行われ、外への戸を開けた際にブザーが鳴るよう、すべての戸にセンサーを設置されていた。利用者が、「自分らしく暮らせる環境」を大切にされている事業所でもあり、今後さらに、ご家族とも自由とリスクについて理解を深め合うような機会を作られたり、又、事業所でもヒヤリハットやリスクマネジメントについて勉強するような機会を増やして、利用者の自由でより安全な暮らしが支援できるよう、職員のスキルアップにも努力していかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修にて虐待について学んでいる。虐待が見過ごされないよう注意を払い、虐待の防止の徹底に努めていきたい。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関するマニュアルを作成し、年1回担当が講習会を開き周知している。又研修会があれば積極的に参加して学ぶ機会を持っている。必要な方ができれば、関係者と話し合いながら、活用出来るように対応していきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に担当者をつけ、時間をかけ十分に説明を行ない、同意を得ている。又、事業所で出来る事、出来ない事を明確の伝え、家族間でのトラブルがないよう、事前に説明している。希望があれば、契約前に見学や体験入所もして頂き、理解・納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に、外部へ連絡が出来るように説明し、記載している。又、介護相談員2名が1ヶ月に1度の訪問があり、相談出来る体制となっている。又、家族会があり、利用者・家族が意見・不満・苦情が出し易い雰囲気にも心がけている。「家族の声」が施設サービスの向上に大切である事を職員で十分話し合い理解している。その他にも法人内で苦情委員会を開催し、外部の方に報告し、年2回アドバイスを受けている。 (外部評価) 年3回の家族会には、多くのご家族が参加されて、食事しながら親睦を深められたり、事業所のサービスについて意見交換されており、事業所内の冷房設備の設置につながったようなこともある。毎月、ご家族は、利用料を法人事務所に持参されており、窓口の方は、事業所にも寄ってもらえるよう声をかけてくれている。事業所に寄ったご家族の中には、他の利用者の方にも親しく話してくれる方もいるようだ。又、設備の修理をしてくださったり、釣った魚を届けてくれるご家族もある。	ケアパートナーでもあるご家族とともに、利用者の暮らしを支えられるよう、場面作りに工夫されてはどうか。又、グループホームや認知症について等、ともに勉強するような機会も作っていかれてはどうか。職員は、「ご家族とお話する時間には限りがあり、利用者の暮らしぶりや状態の報告の仕方やコミュニケーションに工夫していきたい」と話しておられた。さらに支援に工夫して、ご家族との信頼・協力関係作りへ取り組んでいかれることが期待される。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、法人全体の職員会と、GH内の定期ミーティングにて、全体の事について報告したり、意見を聞いたり、情報の共有、研修報告、提案があれば話し合う環境を作っている。又、個別に意見等も聞いてスムーズに仕事出来るよう心がけている。(報告・連絡・相談の結果報告)	
			(外部評価) 職員はそれぞれに、半年ごとに目標を立てて達成できるよう取り組んでおられ、半年ごとに所長が面談をされている。職員によっては資格取得を目標に頑張っておられる職員もいる。内気な性格の職員には、管理者やリーダーの方から声をかけられて、意見等を出せるよう配慮されている。以前、夜眠れず歩かれる利用者がおられたことをきっかけに、所長は、利用者の日中の活動量を増やす取り組みをすすめて来られた。日中、体操やレクリエーションを行うことで夜間の安眠につながった等、成果がみられたようだ。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づき、各自スタッフが目標を立てやすいような業務管理シート作成、それに対ししっかりと業務が出来たか人事考課表で評価。就業規則の見直しをし、職場環境の改善を図っている。	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人トップより定期的に計画を立て、職員研修を実施している。法人の基本方針・社会的ルール・マナー・制度について等、幅広く人材育成に努めている。又、外部研修に全職員が参加出来るよう配慮し、職員の介護力の向上に努めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議構成員として、お互いに訪問して交流を行なっている。又、市や協会の研修会や担当者会があり、情報交換をしている。今後も継続して、地域の同業者と相互の見学・交流をし、情報交換をしていきたい。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来る限り、本人が今まで生きてきた歴史をそのままGHでも継続し、安心して過ごして頂けるよう本人・家族より傾聴・受容し、意向を十分受け止めた上で話し合いを行なっている。本人に受け入れていただけるように職員との関係作りを大切にしている。また、信頼関係が築けるよう、話し方やトーン・目線や表情など、話し易いような雰囲気作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>家族の意向・不安などを受け止め、ここでの生活状況を説明し、信頼関係を築き、安心した生活が送れるようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>必要な支援を明確にし、本人や家族の思いを受け止め、相談に応じ、必要であれば他事業所のサービスに繋げる対応を行なった。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>本人の意欲などを尊重し、手伝いや役割など協力して行ない、又レクリエーションや外出など他者との交流・関係を築いていけるよう配慮した。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>家族会などを通し、家族と本人が共に楽しみ、絆を深めあえるよう支援し、又、職員が一方的に支援していくのではなく、家族にも支援して頂くなど関係作りに心がけた。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>家族などの協力を得ながら、馴染みの人や場所・昔ながらの店等、関係が途切れないよう配慮・尊重し、本人が満足されるよう努力した。家族の協力で敬老会に参加されたり、知人の訪問があった時などは関係が継続できるよう支援に努めた。</p>	
			(外部評価)		<p>3月のお彼岸には、利用者とお餅を作られ、「おいしいね」とみなで楽しまれた。状態が改善して退居された利用者から写真やお手紙、贈り物も届いており、継続してやり取りをされている。数日間寝れない状態の利用者に、その日寝れない人が添い寝して差し上げ、お二人で寝るような場面もみられたようだ。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士関われる時間を設け、一人ひとりの表情や日々の状態、性格や関係を把握した上で、利用者同士より良い関係が築けるような働き・仲立ちをしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方にも近況の広報誌などを送ったり、手紙や電話での会話で継続的な関わりを持っている。又、他事業所へまわられた方にも時々面会を行っている。今後、サービスを終了される場合があっても、継続的な関わりが出来るような関係を築いていきたい。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常のコミュニケーションの中から、本人の意向や思いをくみ取り、記録に落としミーティングやケアカンファレンスで話し合い、情報の共有・利用者の思いの実現に向けての検討を行なっている。 (外部評価) 利用者やご家族の希望で、公文の学習療法を行われたり、午後から利用者が楽しみながら体を動かせるよう、体操やレクリエーションの時間を作っておられる。現在は、利用者から暮らし方の希望はあまり聞かれないようであるが、事業所では、今後さらに、「ご本人がやりたいことがあればチャレンジしたい」と考えておられる。	事業所理念でもある「自分らしく暮らす」ことを支援するためにも、利用者主体のケアに取り組めるよう、利用者一人ひとりのこれまでのことや、現在、今後のことについて、情報収集に力を入れて取り組んでいかれることが期待される。日々の生活のいろいろな場面を捉えて、利用者個々の思いや意向を探り、支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) お誕生日には本人の希望された場所への外出援助を行なっている。生まれ故郷や自宅へ帰ってみたいと希望される事が多く、付き添い援助したことで、より一層の生活環境の把握をする事ができている。無理な引き出しはせず、何気ない日常会話や家族との会話など面接時に失礼のない限りで情報を集めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者状況チェック表(生活一覧)を作成し、毎日記入しながら生活援助を行なう事で、介護員が利用者全員の一日の過ごし方やリズムが分かりやすく、一覧で見ることができる。又、毎朝晩の申し送りにより、スムーズに職員に現状把握が出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月、職員ミーティング時にケアカンファレンスを行ない、全職員の意見交換・提案などが活かされている。又、モニタリング(3ヶ月に1回)を実施。ご家族・本人・職員参加してのサービス担当者会を定期的開催し、ケアプランの作成・見直しを行なっている。又、本人・家族・医師の意向や意見も含めて、新たな計画の情報収集・意見交換を行ない、新たな計画に活かしている。</p> <p>(外部評価) ご家族の来訪時に、サービス担当者会議を開き、計画作成担当者利用者個々の担当職員は、ご家族の意見や要望もお聞きしながら話し合い、介護計画を作成されている3ヶ月ごとにモニタリングを行い、必要に応じて見直しを行っておられる。</p>	<p>さらに、地域密着型サービス事業所として、利用者が地域の中でいるいる人とかかわりながら暮らし続けられるような介護計画の作成にも、取り組んでいかれてはどうだろうか。利用者一人ひとりの暮らし方の希望をもとに、利用者個々が「自分らしく今を生きられるよう」な支援が実践できるよう、介護計画に工夫を重ねていかれてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別にファイルを用意し、状態観察記録はエピソード・医療関係の記録・日々の気付きなど記入している。又、利用者状況一覧表で、一日の利用者の方の生活スタイルが一目で把握できるようになっている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 空室がある場合は入居宿泊体験ができるようになっている。本人・家族の状況に応じて、受診・送迎・他サービス利用等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 法人内にデイサービス・在宅支援センター等在宅サービス事業がある。必要時には介護タクシーを利用し、外出拡大の支援を行ったり、家族との外出を支援している。地域の介護相談員に毎月来て頂き、利用者の生活の様子等を見て頂き、協力しながら支援している。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が2週間に1回あり、状態の変化に応じて受診や往診を依頼している。適切な医療を受けられるよう主治医・家族との連携を密に行なっている。必要に応じ、家族にも協力・同伴して頂いている。	
			(外部評価) 法人の看護師が来訪して利用者の健康管理をしてくださったり、午後から体操やレクリエーション等も一緒に行い、利用者の現状の把握もしてくださっている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医と連携を図り、いつでも気軽に相談できるようになっている。現場にも正看護師を配置し、報告・相談できる体制となっている。又、他事業所の看護師にも協力していただいている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院された場合には、担当者をはじめ介護職員が面会に行き、入院時の状態把握・家族への支援に努め安心を得ている。病院からの退院サマリーで不明な点や留意事項は医療機関への相談を速やかに行うようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医・家族との連携を図り、いざという時に早期対応が出来るように早い段階から状態の変化について話し合いをしている。症状悪化時、家族と主治医・本人・GH職員で今後の話し合いを持っている。GHで対応出来ること・出来ないこと(医療行為)を職員一人ひとり周知している。又、家族会で集まって頂いた際、終末期のあり方について、ご家族の方の意見も伺っている。	
			(外部評価) 家族会時、「ご家族の協力があれば、事業所で最期まで看ることが出来る」とことや「経管栄養等の医療的な対応はできない」ことを説明して、終末期のあり方についてご家族の希望を聞いておられる。事業所では3月に、初めて看取りを支援された。利用者の方は一時入院となったが高齢ということもあって、ご家族は延命措置を望まれず、「事業所で静かに過ごしたい」という希望のもと、ご家族も数日間事業所に泊まり、ともに看取られた。管理者は、職員の不安を軽減できるよう、いつでも連絡が付き、駆けつけサポートできるような体制を作られた。管理者は、人が亡くなる過程を経験されたことで、「職員に観察力や変化に気付く力が付いた」と感じておられた。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急事態のマニュアルがあり、全ての職員が把握できており、対応することができる。また、母体施設を中心に全体でも、行政関係者・消防署の協力を得て、救急手当や蘇生技術の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしている。母体施設にAEDを設置し、施設だけでなく、地域の方への呼びかけを行なっている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2ヶ月に1回利用者と共に避難訓練を実施している。また、自動通報装置を設置しており、速やかな対応に努めている。実施することによりマニュアルの見直しを行ない、より良いマニュアル作成に取り組んでいる。また、消防署の協力を得て、訓練について定期的に指導して頂いており、法人全体の協力も得ている。又、地域消防団の方にも火災や災害時等協力して頂けるようになっている。 (外部評価) 居室入り口には、個々に「避難できたか」ということを確認する札をかけて、災害時に備えておられた。前回の外部評価実施後には、消防団の方に事業所内を見学していただいたり、実際に消火栓を開いて放水する様子もを見せていただいた。又、居室内のタンスには、突っ張り棒で地震対策をされており、スプリンクラーも設置されていた。事業所近くの川は、詰まると水が道にあふれ出すため、雨が降る時には、職員が気を付けて掃除を行っておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の誘導・介助や確認・失禁の対応については、不安や羞恥心・プライバシーに配慮している。申し送りについても利用者のいる所ではないよう配慮している。 (外部評価) 木曜日にはパンの移動販売車が来てくれ、利用者はお好きなパンを選んでおやつにされている。ご自分の汚れた下着や衣類は「ご自分で片付けたい」、又、「女性の職員に洗濯を頼みたい」と思っている方もあり、職員は、居室にバケツを準備されて、ご自分で入れられるように支援されていた。居室を離れる時には、必ず鍵をかける方には、夜間の睡眠にも配慮して、職員はご本人がトイレに起きて来られる際に状態を確認されている。利用者のお誕生日には、それぞれにご本人の願いを叶えられるような支援に取り組んでおられ、ご家族とも相談しながら、お墓参りや洋服等のショッピング、又、職員から寄せ書きを贈ったり、パースディケーキを手作りしてお祝いされている。職員は、「自分が認知症になった時、入居したいと思うようなホーム作り」を目指して取り組んでいきたいと考えておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のリズムに合わせた声掛けを行ない、意思表示が困難な方には、ジェスチャーや表情・筆談などで対応し、本人の意思を尊重している。又、小さい事でも自己決定できるよう声掛けに気を配っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調やペースに合わせ、又本人の気持ちを尊重した個性のある柔軟な支援を行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者に合わせ、理・美容院利用の支援を行っている。又ホーム内でオシャレが気軽に出来るよう出張美容サービスを利用している。ショッピングに行った際、自分好みの洋服を選んで頂いている。常に清潔に心がけ、身だしなみ等、細やかな支援を行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日メニューを記入する事で楽しみに待っている利用者の方もおり、又当番制で毎日順番に「いただきます」の声掛けをして頂き、一緒に食事をしているという空間作りなどにも配慮している。食事中混乱する方や一気に食事をされ誤嚥の危険がある方には、前もって職員が側で食事を共にしてさりげなく目配りやサポートをし、食事がゆったりと楽しめるように心掛けている。準備や後片付けなど、利用者の体調を見ながら一緒に行なってもらっている。 (外部評価) 昼食は、法人の厨房から食事が届くようになっているが、前回の外部評価実施後からは、毎週水曜日の昼食は事業所で食事を手作りされており、前日の火曜日には、利用者と地域の商店等に食材の買い出しに行き、一緒に食事を作っておられ、利用者の食欲も増すようである。朝・夕食は、法人で作成された献立に沿って、魚屋、八百屋等、それぞれが食材を配達してくれ作っておられる。職員は、食事を手作りする際には、利用者に食べたいものを聞くようにされているが、希望を出す利用者は少ないようである。飲み込みの状態によって、法人厨房から来る食事をミキサーにかけたり、食べる早さが早い利用者には、職員がとりに座り、お膳に一品ずつ配膳して食事のペースにも気を付けておられた。食後、利用者は、その場でおしゃべりする等して、ゆっくり過ごしておられた。	さらに、食事を通じて、利用者の楽しみを増やしていかれてほしい。職員のかかわり方や支援等も工夫され、おいしい食事をさらに楽しめるような工夫を考えてみてほしい。又、利用者が主体の生活を支援することがグループホームの特徴でもあり、食事支援が利用者主体の取り組みになっているか、点検する機会にもされてはどうか。利用者のできることや得意なこと、こだわりや好み等を探り、利用者も食事一連の流れにかかわれるよう、支援に工夫されてはどうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表の作成により、栄養のバランスのとれた食事が摂取できている。摂取量が少ない場合、補助食品にて対応したり、一度に食べられない方には分けて食べて頂くなど柔軟に対応している。又、水分補給も個々の好みに合わせた物を提供する事で、水分量が確保できるよう努めている。食べる量・水分摂取量については適時確認・記入している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きの声掛け・見守り・介助は原則毎日行なっているが、朝・昼の口腔ケアの習慣が付いていない方や困難な方には時間を置いて対応するなど、清潔保持に努めている。うがいも困難な方には水分補給や口腔用のスポンジ、ガーゼなどを使用し、残砕物が残らないよう努めている。(義歯洗浄週2回実施)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、早めにトイレの声掛けや個々の様子等、自立に向けた支援を行なっている。又、安心して排泄が促せるよう環境作りに努めている。	
			(外部評価) 利用者に声をかけてトイレに誘導する等、トイレで排泄できるよう支援されている。便秘が続くような利用者には、薬を使って排便を促しておられ、調査訪問時は、排便があったことでスッキリとした表情の利用者もみられた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防の為、牛乳や食物繊維の多い食材をおやつに取り入れている。又、栄養士による献立表作成により、バランスのとれた食事を提供する事が出来る。又、毎朝定刻でのラジオ体操やレクレーション・個別の体操や運動などで、薬だけに頼らないよう工夫し、対応している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴希望者は本人の状態に配慮しながら入浴して頂いている。入浴が好きでない方には無理な声掛けはせず、声掛けや対応の工夫等を行なって気持ちよく入浴出来るよう努めている。	入浴する利用者一人ひとりの立場に立って、個々の入浴の習慣や好み、こだわり等を探り入れながら、利用者一人ひとりが気持ちよく入浴できるような支援に工夫を重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 前回の外部評価実施後、利用者は、「夏場は週に3回」入浴できるように取り組みをすすめておられる。現在は、ご自分から入浴を希望する利用者は少ないようで、職員で毎朝相談し、入浴する利用者を決めて支援されている。又、リクライニング車いす等を利用する方等、4名の利用者は、週2回、器械浴のある隣接するデイサービスで午後から、職員が2名が介助して入浴されている。男性職員の介助時に、女性利用者の嫌がるようなそぶりが見えた時には、女性職員に替わるようにされている。浴室から裏庭が見え、お花や緑を眺めながら入浴できるようになっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調不良や足の浮腫がある方には声掛けをし、ベッドで足を高くあげて休んで頂く等の支援をしている。日中はレクレーション活動や本人の興味のある事や好きな活動をして頂き、生活のリズムを作り安眠に繋げている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表を作成し、いつ何を飲まれているのかが一目でわかるようにしている。また目的や副作用等が記載されている用紙がある。職員の申し送りでも確認している。症状の変化にも留意し、主治医との連携を取りながら本人に合った服薬・調節を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人一人の力を発揮出来るよう、個々の得意な分野や好きな事を活かした無理のない役割をして頂いている。手伝いを頼んだ場合には感謝の気持ちを伝え、本人のやる気に繋げていけるよう努めている。外出や行事への参加など楽しみな事を利用者と共感出来るよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や天気に応じ、気分転換を図れるように日常的な散歩・買い物あるいはドライブに出掛けている。一人一人の習慣や楽しみ事に合わせて、外出を計画し、ストレス発散・四季を感じて頂いている。	
			(外部評価) 日々の散歩や裏山にしいたけ取りに出かけたり、利用者はお花がお好きな方が多く、季節ごとに咲くシャクナゲやつつじ、あじさい等、季節のお花を見に出でおられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分の財布からお金を出したり、小額を手元に持たれていることでの安心感や満足感に配慮している。家族よりお金を預かり事務所で管理している利用者でも外出や行事などではお金を手渡し、自分で支払いをして頂くなどの工夫をしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や友人等に電話をしやすい雰囲気作りや職員からの声かけを行なっている。また会話が他の利用者に聞こえないよう事務所で利用してもらっている。年賀状や暑中見舞い、お礼状など手紙を出す為の支援を行ない、利用者の思いを汲み取り支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節の花をテーブル・洗面台等に生け、季節を感じて頂けるような雰囲気づくりをしている。また、中庭にスペースがあり室内からも季節を感じれるような造りになっており、利用者の皆さんと一緒にプランターに季節折々の花を植え、季節感を味わって頂いている。カレンダーや行事案内を掲示し、利用者によりわかりやすいように工夫している。又、入浴時、浴槽から季節折々の景色や花々を眺めることができる。</p> <p>(外部評価) 事業所は、木を基調に、周辺の自然環境と調和した造りとなっており、天窗等、ガラス窓が多くて、自然の光が入り明るい。職員が、ご自宅から季節のお花を持って来てくれて、玄関にはいつも生花が飾られている。中庭には、裏山の木が植えられていて、居間等からちょっと出ることでもでき、調査訪問時には、プランターにひまわりの苗が育っていた。事業所内は、中庭を囲み、回れるような造りとなっていて、さらに、建物の外回りもぐるっと回れるようになっている。冬の暖房設備は設置されており、夏は窓を開け、自然の風を入れるようにされていたが、家族会からの要望も受けて、冷房設備が設置されていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関や談話コーナー等、建物の一画一画に椅子を置き、誰でも休める空間を作り、一人でゆったりと過ごしたり、仲の良い利用者同士で過ごすことができるようにしている。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の馴染みの物・必要とする物を持って来て頂き、居心地が良く不安を与えない居室作りに配慮している。</p> <p>(外部評価) 居室は、天窗や明かりとり、窓があって、自然の光が入って明るい。ご家族の写真や塗り絵の作品等を飾っている居室もみられた。時計やテレビを置いている居室もあった。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 本人にとって「何が分かり難いか」「どうしたら本人の力でできるのか」を追求し環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は適時、職員一同で話し合い本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せる環境作りができるよう試みている。</p>	